

学ぶから退敗

伝習館スポーツ

第21号 令和4年11月
伝習館高等学校 広報・中学募集課

伝スポ 県新人戦 全力で挑んだ



成長への糧

福岡県高等学校新人ソフトテニス大会兼九州高校新人ソフトテニス大会福岡県予選は、11月5日・6日に名島運動公園テニスコート他で行われ、女子団体と個人では男子が福田・荒木組、女子が川崎・志牟田組、武下・國友組、大村・山本組が出場し、健闘したが初戦で敗退した。

ソフトテニス

令和4年度 福岡県高等学校新人ソフトテニス大会 兼九州高校新人ソフトテニス大会 福岡県予選

男子

個人
福田隆介(2年高田中出身)・荒木陽和(2年日光中出身組)

女子

団体
川崎美穂(2年歴木中出身)・志牟田奏(2年大川桐葉中出身)・大村彩花(2年柳南中出身)・山本優佳(2年大川桐葉中出身)・武下千華(1年大川桐葉中出身)・國友佳乃(1年宅峰中出身)

個人

川崎美穂(2年歴木中出身)・志牟田奏(2年大川桐葉中出身)・武下千華(1年大川桐葉中出身)・國友佳乃(1年宅峰中出身)・大村彩花(2年柳南中出身)・山本優佳(2年大川桐葉中出身組)

男子

個人
福田・荒木(伝習館) 1-4

門田・山田(東福岡)

女子

団体
伝習館 0-3 福大若葉

個人
武下・國友(伝習館) 0-4

大村・山本(伝習館) 0-4

崎田・松下(門司大翔館)

川崎・志牟田(伝習館) 0-4

小野・古野(福大若葉)

ダブルス
前田・安西(伝習館) 0-2

田端・城戸(福岡常葉)

令和4年度福岡県高等学校卓球新人大会兼第56回全九州高等学校卓球新人選手権大会福岡県予選は、11月12日・13日、19日に飯塚市飯塚第一体育館で行われ、男子・女子学校対抗、女子シングルスでは久良木花が出場し、健闘したが初戦で敗退した。

卓球

令和4年度 福岡県高等学校卓球新人大会 兼第56回全九州高等学校卓球新人選手権大会福岡県予選

男子

学校対抗
大藪俊太(2年蒲池中出身)・宮園歩夢(2年三瀬中出身)・岩川純(2年蒲池中出身)・龍拓海(2年大川桐葉中出身)・八田零大(2年大川桐葉中出身)・田中琉稀(2年三瀬中出身)・寺崎悠人(1年柳城中出身)

女子

学校対抗
久良木花(2年三瀬中出身)・中川与寧(1年瀬高中出身)・岡菜々美(2年三瀬中出身)・西田悠乃(2年高田中出身)・城戸綾乃(1年甘木中出身)・只隈璃音(1年瀬高中出身)・原尻彩也花(1年瀬高中出身)・只隈花奈子(1年瀬高中出身)

個人

学校対抗
伝習館 0-3 北九州市立

女子

学校対抗

伝習館 0-3 青豊

シングルス

久良木 0-3 服部(自由ヶ丘)

◆ 編集後記 ◆

「勝負」には、「勝ち」「負け」はつきもの。勝てば嬉しい、負ければ悔しい。できるならば勝ちたい。でも、優勝できる人(チーム)は、たった一人(チーム)だ。負けた人(チーム)は、練習や努力した意味はないのか。

「霊長類最強女子」と言われオリンピックで3連覇を果たしたレスリングの吉田沙保里選手がこのように語っていた。「私は勝ち続けることで成長したんじゃない、負けて強くなったんです」。当時、世界大会での13大会連続優勝の功績を称えられ、国民栄誉賞を授与されるなど、まさに「向かうところ敵なし」の10年間、絶対的な強さを誇ってきただけに、意外な言葉として受け止められた。実際には、山本聖子選手というライバルとの戦い、そして「山本選手に『裸り返し負け』という体験があったからこそ、今の自分がある」と語っていた。「負け」は「失敗」という言葉に置き換えてもいい。人は失敗を重ねて成長していく。「自分の足りない部分を見つけ」「徹底的に磨き、今までの自分から新たに「成長」するよう取り組む、そのことに価値があるのだ。自分のより良い「成長」に向けて、「敗戦」を大きな糧とできる伝習生であってほしい。

伝習館は令和5年度に200周年を迎えます

文武両道は「糧にすること」!

